



GALLERY HEPTAGON  
HEPTAGON WORKS GALLERY and LIVING

Press Release 2024.7/13

# 奥島圭二 硝子展「処」開催のご案内

Keiji Okushima Glass exhibition -PLACE-

このたび、ギャラリーヘプタゴンにて、ガラス造形作家奥島圭二硝子展「処」を開催いたします。

奥島圭二はガラスという素材を用いてオブジェや茶道具など様々な作品に挑戦し制作しています。ガラスという素材の捉えきれない儂く妖艶な美しさに心惹かれ、自身の心象の投影を試みています。

液体であり個体であり、儂さと強さを併せ持ち、光の反射と透過そして屈折という一見相反する性質を同時に合わせ持つこの素材に奥深さと未知なる風景の可能性を感じています。

技法は、kilncast (電気炉鑄造) や blow (吹きガラス) をベースに独自の技術や研究を混合して一点一点独特な作品を仕上げています。

夏季の開催にあたり、暑さの和らぐ夕刻 20 時まで開催時間を延ばしています。

また奥島の作品を使用し作家自身の点前による気軽な茶席も設けます。

ぜひご高覧くださいませ。

—— 作家コメントをステートメントにかえて ——

いつも個展のタイトルやコメントを考える時、その時々自身の心の在り方や外側に対する反応に向き合う事になります。それは改めて自身の内面を認識し、確認すると同時に、こんな僕でも社会的な存在であるということを見出す瞬間でもあります。

世界を見渡してみると、戦争や災害や様々な問題が露呈し、まさに混乱期を迎えている様にも見えます。一見するとあまり明るい表現は出来ないように感じる昨今、それでも人はやっぱり前を向いて生きていくんだ、みたいなことをいつも考えて自身を奮い立たせて作品を作っています。

そしてどんな時世であっても、僕自身はやはり自分のやるべきことに向き合うことでしか使命は果たせないし、なおさら自分を含めた人間の所在をガラスの中に見出そうと日々制作を試みています。

だから「処」という一文の漢字は良い意味で複雑でいいなあと感じます。

【こ、そ、しょ、ところ、おる、おく、】など多様な読み方がある。

この漢字は存在すること自体を意味し、とりはからうことや、さばくこと、

人間の存在や在り方自体を問う様な言葉だと思ったので今回の個展のタイトルに選びました。

## 【展覧会詳細】

会期 | 2024年8月17日(土)～8月25日(日)

時間 | 12:00～20:00

休廊日 | 8月22日(木)

会場 | Gallery Heptagon (ギャラリー・ヘプタゴン)

〒602-8175 京都市上京区下立売智恵光院西入中村町 523

TEL: 080-7583-3388 info@heptagonworks.com www.heptagonworks.com





玻璃片口 135D×90W×95H  
玻璃盃 70Φ×55H



陶玻璃盃 130Φ×80H



玻璃鑄込金彩 WAN 130Φ×60H



玻璃花入 85Φ×190H

1977 京都生まれ滋賀育ち  
2000 立命館大学産業社会学部卒業  
2002 富山ガラス造形研究所造形科卒業  
ガラス工房勤務 着物染色工房勤務を経て  
2010 ガラス作家として独立(滋賀県高島市にアトリエを構える)  
以後国内外にて展覧会を中心に活動

○主な展覧会

- 2010・個展「ガラスの灯り展」天(京都清水)
  - ・グループ展「灯り展」あかね画廊(銀座,2010~13)
- 2011・野外展示 zaroff(初台,2011,2012)
  - ・個展「光やどすガラス」陶庵(金沢)
- 2012・個展「水面の記憶」ルンバルンバ(金沢)
- 2013・グループ展「Art from the Lakes 滋賀県ミシガン州美術交流展」  
Lansing Art Gallery(Michigan(米国))
  - ・グループ展「江原道江陵市滋賀県高島市美術交流展」(韓国江陵)
  - ・個展 ギャラリー 494(西荻窪,2013~16)
  - ・アートフェア「Art Road77 特別企画 KYOTOKYO2013」  
(ギャラリー知より参加,韓国ヘイリ芸術村)
- 2014・グループ企画「萬福寺手しごと回廊」(宇治,2014~16)
  - ・グループ展「六人六色」(韓国江陵)
- 2015・春のグループ展 gallery サラ(大津,2015~2017)
  - ・個展「Breathing Light」gallery ナスム(韓国ソウル 仁寺洞)
- 2016・個展 gallery AMISU(長浜,2016~2018)
  - ・個展 Gallery 福果(神保町,2016~2018)
  - ・アートフェア ART OSAKA (ART ZONE 神楽岡より,2016~2019)
  - ・個展 MaKaRi(米国 NY,2016年より隔年開催予定)
- 2017・個展 wad+(心斎橋,2017~2018)
  - ・グループ展「日本の名品」展 日本橋三越本館
  - ・妻(奥島香)と二人展 パラミタミュージアム 小ギャラリー
  - ・グループ展「台日美術交流会」台北新光三越
- 2018・土橋隆弘氏と二人展 高島屋京都店 美術画廊
  - ・個展 Toyoda 酒の器(伏見)
  - ・台日アーティスト組「四猿」による展覧会+落語(法然院講堂 京都)
  - ・個展 陶 翫粹(京都)
  - ・グループ展 韓日作家4人展 Minyesarang(韓国金浦,2018~2020)
  - ・個展 Makari(米国 NY)
- 2019・ART NAGOYA 参加(京都 ART ZONE 神楽岡より,2019~2021)
  - ・個展「あわひ」Galerie Ashiya Schule(芦屋)
  - ・個展「うつしおみ」gallery サラ(大津)
  - ・台日アーティスト組「四猿」による展覧会+茶会+落語(台北、湖口老街などにて)  
※四猿のメンバー 戴開成(落語家) 方志偉(絵師) 伴哲生(錫作家) 奥島圭二(硝子作家)
  - ・グループ展「李朝に思いよてせ」阪急梅田 美術画廊
- 2020・グループ展「守破離」高島屋京都美術画廊
  - ・個展「再会」Galerie la(銀座)
- 2021・三人展「茶の余韻」ぎやらりいホンダ(堺) 阪本健 伴哲生 奥島圭二
  - ・個展「碧く澄み渡る」gallery サラ(大津)
  - ・KOGEI ART FAIR KANAZAWA(gallery mussee より毎年参加,ハイアットセントリック金沢)
- 2022・奥島圭二・城崎月甫 二人展 日本橋高島屋 ギャラリー暮らしの工芸
  - ・個展「随(まにま)に」gallery とーく(姫路)
  - ・個展「彼は誰時」gallery heptagon(京都)
  - ・個展「硝子と土の狭間」galerie la(銀座)
- 2023・個展「-the Beauty Concealed in A Moment-」gallery 器館(京都)
  - ・光の旅①- グラスアートグループ展 touch gallery(香港)
  - ・個展「なつきにけらし」wad+(大阪)
  - ・個展「かさね」一茶亭京都(京都)
  - ・MATTER' S WHISPER  
クラフトとデジタルアートを融合させた没入型展示【フランス×日本】醍醐寺(京都)

○コンペ

- 2010 Glass Craft Triennale(入選)
- 2011 日本クラフト展(入選)
- 2012 テーブルウェア大賞展(審査員イワタリ賞)
- 2016 伊丹国際クラフト展(入選)